

二松学舎大学人文学会 第126回大会

【日時】2023年7月22日(土) 13:00 開会(12:30 開場)

【会場】二松学舎大学 九段キャンパス 1号館中洲記念講堂、201、202 教室

【開催方式】対面+オンライン配信(講演のみ)《参加費無料・事前申し込み不要》

【研究発表】13:05~14:45

【第一会場】(201 教室)

産む性の心身両義性 ——川上未映子「乳と卵」論——

二松学舎大学大学院 文学研究科国文学専攻 博士前期課程修了 初芝 里帆

兼家による『蜻蛉日記』執筆要請の実相 ——上巻冒頭部の検証を通して——

浦和明の星女子中学高等学校教諭 大貫 正皓

幽霊が出現する「状況」はいかに描かれるか

映画『回路』を題材に考える幽霊とメディアとの関係性

二松学舎大学大学院 国際日本学研究科国際日本学専攻 博士前期課程2年 丁 潔

【第二会場】(202 教室)

夏目漱石『満韓ところどころ』における「韓」の表記について

二松学舎大学大学院 文学研究科国文学専攻 博士後期課程1年 王 風

唐代中期の季札評

二松学舎大学大学院 文学研究科中国学専攻 博士前期課程2年 三木 啓介

明治期の漢詩人大江敬香について ——その「西詩体」を中心として

二松学舎大学大学院 文学研究科中国学専攻 博士後期課程3年 胡 加貝

【講演会】15:00~16:30 (於 1号館B2階 中洲記念講堂)

《あわい》の時代に夏目漱石を読む

下掛宝生流能楽師 安田 登氏

◆ライブ配信は、二松学舎大学人文学会のYouTubeチャンネルにて行います。

◆大会の詳細は、人文学会HPの「人文学会第126回大会開催のお知らせ」をご覧ください。

二松学舎大学人文学会事務局

TEL 03-5962-3304/E-mail:jibun@nishogakusha-u.ac.jp